



東日本工作情報 工場通信

第30回東日本工作定期委員会ひらく

2017年12月9日、『第30回東日本工作協議会定期委員会』を大宮総合車両センターにおいて開催しました。

定期委員会は、庄司副議長(仙総)の司会で始まり、協議会を代表して小野議長(大宮)は、『①ベスプラ本社交渉後の取組強化と今後の課題、②アスベスト本社交渉に向けた取組強化、③組織の強化・拡大』等について、あいさつをしました。

また、お忙しいなか出席してくださった来賓の皆さんからのあいさつでは、渡辺・東日本本部執行



役員改選

議長 小野浩美(大宮総車セ)
副議長 庄司 修(新幹線総車セ)
事務長 徳武 稔(長野総車セ)
会計監査 宇塚史明(大宮総車セ)
会計監査 森谷治雄(東京総車セ)

大変長い間おつかれさまでした
佐藤 治さん(東京総車セ)
大日方 克利さん(長野総車セ)

委員は『①エルダー修正提案の解説、②アスベストの取組強化、③組織の強化・拡大』について、長谷川・東日本運転協議長は『東日本運転協の活動報告』について、池田・神奈川労災センター理事は『アスベスト健康手帳取得問題と

第63回工場・車両所代表者会議

定期委員会での『工場・車両所代表者会議』は、定期委員会を補強する立場から例年行われ各工場・車両所から前回会議からこの間の各々の取り組み報告と交流を深めることから秋田では、エルダー社員のために業務委託が進んでいるが数年後にはエルダー社員も定年で辞めてしまうため、委託会社で要員補充や技術を賄いきれない。アスベスト関係では、485系統の廃車解体はアスベスト専用建屋で室内や床下の除去を行った後おこなっている。また、スレートにアスベスト含有のため屋根の張り替えとともにやっているが億単位の予算になっている。

長野では、現職組合員が『悪性胸膜中皮腫』を発症し、労災認定に向けた取り組み強化をしている。会社は、従事歴に対する事業主証明を記載しないため同僚証明を作成して対応している。本人は、肺の手術を行い12月には退院し、その後抗がん剤治療を継続していく予定になっている。各工場のご

発行責任者 小野 浩美
編集責任者 小野 浩美

長野アスベスト労災認定の取り組み』について、井部・アジアプレスジャーナリストは『ジャーナリストから見たJR会社のアスベスト隠し』についてなど、4名からごあいさつをいただきました。

その後、佐藤事務長(大井)から経過報告と活動方針(案)の提起が行われ、一時定期委員会を休会し『第63回工場・車両所代表者会議』に移行しました。

支援をお願いしたい。また職場の中では、建屋天井屋根裏スレートにアスベストらしき物が吹き付けられており、この間の台風などの風雨によって剥がれ落ち検査結果は、白石綿25%含有が判明。(信濃毎日新聞12/8付)

仙台では、業務委託が増大している中、教育・訓練等を点検して支社交渉で習熟度等を指摘すると委託会社の問題、さらに教育スケジュールの問題ではあくまでも目安であり文句を言うなら今後は資料提出は考えるとの暴言が支社担当者から出る始末で団体交渉とはほど遠いものになっている。アスベストでは、E2系J10編成の廃車解体時に0.1%以上アスベストが含有しているにも拘らず社員には説明すらなかった。

その後、定期委員会を再開し活動方針並びに予算・決算、さらに役員改選を承認して定期委員会を終了しました。紙面の関係ですべての工場・車両所の報告ができませんでした。お詫び申し上げます。